

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的には「知識・技能」について概ね定着している。目標値を達成できる生徒が多い反面、課題のある生徒も少なくはないので、個別の学力に応じた丁寧な支援を講じていく。ドリルパークやスタディサプリを活用して繰り返し問題に取り組んだことは、生徒の学習に向かう意欲や予習・復習の習慣化につながっていると考えられる。学習から学んだことが、結果につながるよう授業改善・工夫に継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組む」主体的な活動、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」対話的な学びについての肯定的な回答は90%近い値ではあるが、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次につなげることができる」の肯定的な回答は85%程度に留まっている。今後、教師が生徒の考えたプロセスを把握し、生徒自身が自分の考えに説得力がもてるような授業改善に努めていく。

今年度の課題と学力向上策		
①	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 漢字書き取りや基本的な計算など「知識・技能」について定着している生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きい。 <指導上の課題> 個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用する学習活動が設定しにくい。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する漢字や計算などの基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定する。また、これらの活動を通して、予習と復習を習慣化し、見直しをもって授業に取り組めるようにする。【年間20回以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習に対して意欲的ではあるが、自分の考えを伝える、根拠を明確にして書くことに課題がある。 <指導上の課題> 思考力・判断力・表現力を育成に重点をおいた学習活動が少なくない。	⇒ 各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う。【年間20回以上】

<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	スタディサプリを活用した基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し、学習習慣の定着を図り、基礎学力向上に努めた。また、定期テスト期間外においても、長期休業で取り組ませることで、学習意欲の向上や予習・復習の習慣化につなげることができた。R7年度さいたま市学習状況調査「学習内容について分かった点や分からなかった点を見直し、次につなげることができる」の質問項目について肯定的な回答の割合が85.6%を得ることができた。さらに学習意欲が高まる授業を展開する。
思考・判断・表現	B	各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けさせながら授業に取り組んだ。また、「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行い、プレゼンテーション能力や発表力を高める授業を行った。R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93.9%を得ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・数学共におおむね県の平均に近い正答率になっている。特に国語では「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題について高い正答率を得られた。また、数学では「相対度数の意味を理解しているかみる」問題について高い正答率を得られた。基本的な事項を繰り返し学習する機会を授業の中で設定していることが成果として表れ、生徒間の個人差が徐々に解消してきているのではないかと考える。
思考・判断・表現	国語・数学共におおむね県の平均に近い正答率になっている。特に数学では、「目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明できるかどうかみる」問題について高い正答率を得られた。しかし、国語の「読み手の立場にたって文章を整える問題」や数学の「事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題など、記述式の問題で無解答率が高くなっていた。引き続き、自分の考えを伝える、根拠を明確にして書くことを学習活動に取り入れ、改善を図ってきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(授業生徒の実態把握)

④中間期報告

⑤評価(※)

③	評価(※)	学力向上策の実施状況	中間期見直し
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する漢字や計算などの基本的な事項を繰り返し学習する機会を設ける。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力が身に付くよう、思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業に取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	1年生、2年生共に、各教科の設問の正答率は市の正答率を上回ることができた。どの教科においても基本的な学力が定着しており、身につけている知識・技能は十分発揮できている。課題としては、2年生理科「天気図における基本的な記号の知識」を問う設問では、前線について9.5%、天気記号について3%市の平均値より下回った。課題の解決としては、既習の確認や繰り返し学習を行い、確実な学力の定着を図る。また、生徒がより高い知識・技能を習得できるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	1年生、2年生共に、各教科の設問の正答率は市の正答率を上回ることができた。特に根拠や知識に基づいて資料から正しい解答を選択できる力は身に付いている。理科のグラフから読み取り計算する問題、時代の出来事や関りに着目して社会の変化を考察する問題など、与えられた情報を整理して、既習したことや学習した知識と関連させて自分の考えを示す問題に課題がみられた。今後も考えを整理し、言葉で説明する活動に重きを置いた授業を展開する。また、話し合い活動を通して、他者と協議をして解決策を見出す活動を行い、思考力・判断力・表現力を高めたい。